

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

設問数の増加はなかったが、計算量が大幅に増加し、時間内の解答は厳しくなった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	問形式 (記述)	力学 (2物体の運動)	物理	さまざまな状況に設定された台と小物体についての問題である。2物体間にはたらく力を正しくとらえ、どのように運動するかを判断する必要がある。	やや難
[2]	問形式・ (記述・ 選択)	原子・電磁気 (光電効果, 電場 および磁場中の電 子の運動)	物理	光電効果により飛び出した電子を電場および磁場中で運動させる状況を考えさせる問題である。光電効果の正しい理解と様々な条件変化に対応する思考力が必要。	標準
[3]	問形式・ 空所補充 (記述・ 選択)	A. 波動 (光の干渉) B. 原子 (核反応)	物理	A. 光の干渉の問題である。干渉条件を正しく立式すること。 B. 原子核反応において、反応が起こる条件を考える問題である。問9は v_n の2次方程式の判別式を考えればよい。	A. やや易 B. やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書で扱われている基本事項を確実に理解し、物理的な内容を正確に理解した上で、発展的な問題演習に取り組む必要がある。

題意のとらえにくい設問では、問題文の流れを注意深く追っていくことが要求されるので、読解力を養う練習も欠かせない。